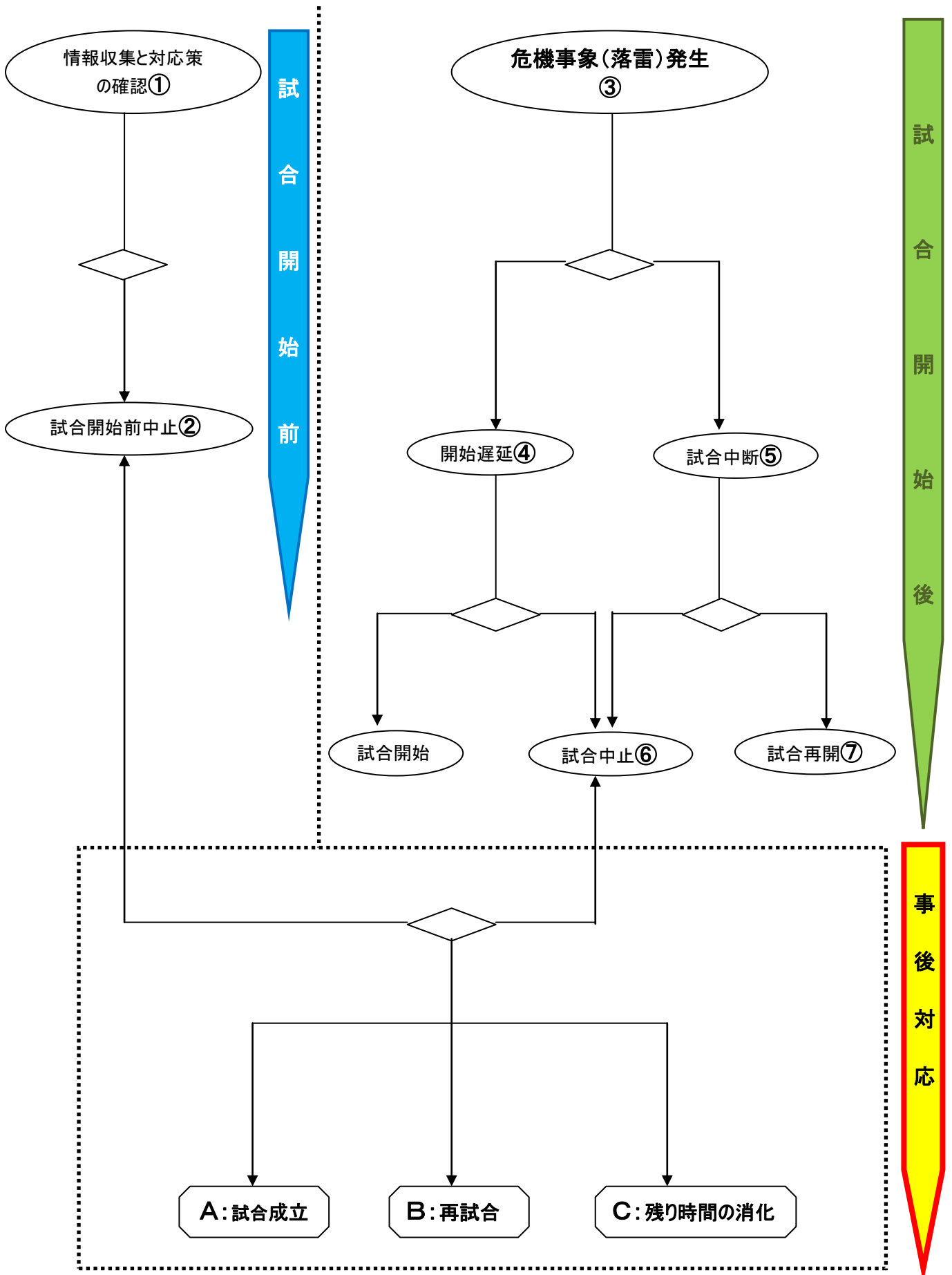


危機事象(落雷)発生時の試合運営に係る判断について(フローチャート)



危機事象(落雷)発生時の試合運営に係る判断について(フローチャートの説明)

危険と判断した場合は躊躇なく
中止、中断する。

主催、会場責任者は大会・試合運営関係者に雷対応について徹底すること！！！！

試 合 開 始 前

①情報収集と対応策の確認 → (決定責任者)会場責任者・ホームチーム運営担当者

- 落雷の可能性が高い状況になった場合、関連情報(特に大雨や雷雲)収集と情報の共有を行うこと。
ウェザーニュースの活用
- 情報収集の方法、収集先を事前に確認しておくこと。また簡易雷警報器等の機材を確保することが望ましい。
- 避難場所の確認を事前に行うこと。
- 中止を想定し、決定機関、決定手順および連絡先の確認を行うこと。

②試合開始前中止 → (決定責任者)①主審・会場責任

- 事前中止の判断をした場合は、予備日の対応および関係方面との調整を速やかに行う。

試 合 開 始 後

③危機事象(落雷)発生

- 事象発生を受けて、対応を関係者で検討を行う。

④開始遅延 → (決定責任者) ①主審
②会場責任者

- 短時間に状況が回復する可能性の場合も安全管理の見地から、遅延の対応を含め慎重に対応する。

⑤試合中断 → (決定責任者) ①主審
②会場責任者

- 危険と判断した場合は躊躇なく中断する。
- 競技規則上では「試合の中断は審判員の判断で行うが、審判員が雷鳴に気づかない可能性もあり、会場責任者・第4の審判員・大会・試合関係者の連携を密に保つこと。
- 審判員と他関係者との関係で必ずしも中断権限を審判員が持てないケース(例えばユース審判員:これに限らない)などもあり、このような場合は中断を決定する/または審判員に中断勧告を行う者をあらかじめ明らかにしておくこと。
- 上記の事例で中断決定者が現場にいないケースを想定して、現場にいる関係者で速やかに中止を決定できることを事前に確認しておくこと。

⑥試合中止 → (決定責任者) ①主審
②会場責任者

- 中断と同様に危険と判断した場合は躊躇なく中止する。
- 競技規則上では「試合の中止は審判員の判断で行うが、会場責任者・第4の審判員・大会・試合関係者の連携を密に保つこと。
- 審判員と他関係者との関係で必ずしも中止権限を審判員が持てないケース(例えばユース審判員;これに限らない)などもあり、このような場合は中止を決定する/または審判員に中止勧告を行う者をあらかじめ明らかにしておくこと。
- 上記の事例で中止決定者が現場にいないケースを想定して、現場にいる関係者で速やかに中止を決定できることを事前に確認しておくこと。
- 中止に伴う、作業、連絡を速やかに行う、尚、事後対応については下記の「事後対応」を参照。

⑦試合再開 → (決定責任者) ①主審
②会場責任者

- 収集した情報をもとに危険性がなくなると判断された後には速やかに試合を再開すること。

事後対応

大会主催者、運営責任者は事前に試合成立に関し規定しておくこと！！

A* 試合成立 → (決定責任者)高円宮杯実施委員会

- 中止され、再開が不可能とされる場合は原則再試合を行うこととする。
- 施設面、安全管理面、日程面で再試合が不可能の場合、関係者の了解を前提に試合を成立させることまたは勝者を決定することが出来る。

B* 再試合/C* 残り時間の消化 → (決定責任者)高円宮杯実施委員会

- 再試合が可能の場合は可及的速やかに、然るべき決定機関にて決定する。
- 再試合は同一、他会場にとらわれず、実施することが出来る。
- 状況によっては別途日程にて残り時間の消化により試合を成立させることができる。